



ORACLE

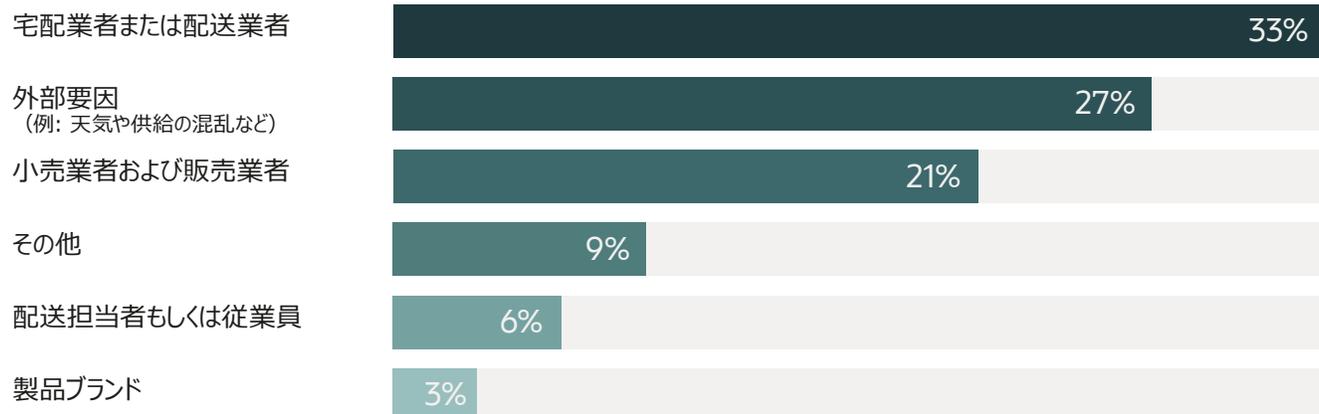
イノベーション・ガイド

コネクテッド・ロジスティクス

## はじめに

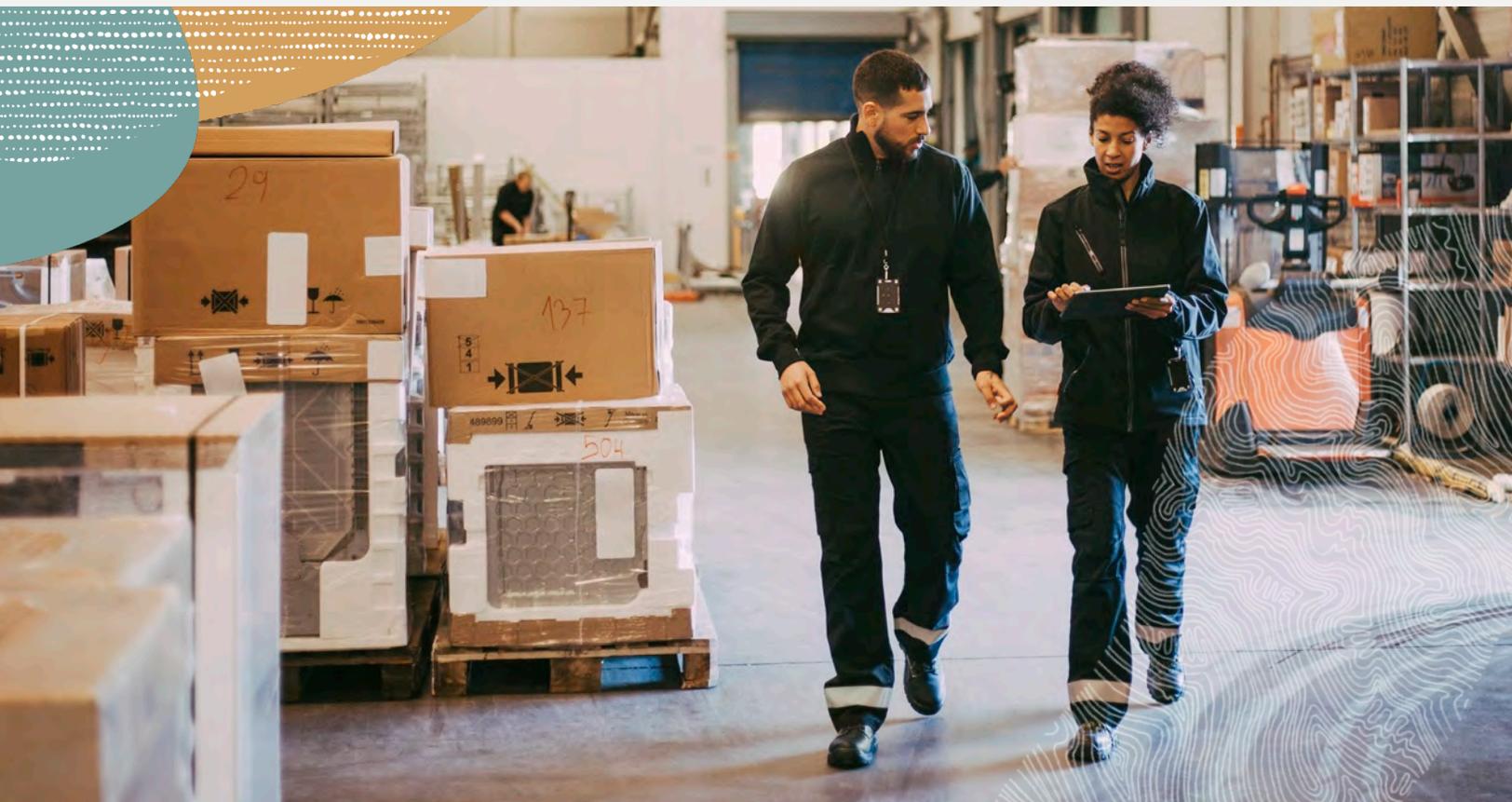
製品の購入や顧客への直送が便利になっていく一方で、顧客の期待値や、世界的な混乱や不測の事態が重なり、既存のサプライチェーンやロジスティクスのプロセスに負荷がかかるようになりました。デロイトが最近行った調査では、3,820人の回答者のうち、33%が宅配業者や配送業者によって遅延が発生したと回答しており、27%が天候や供給の混乱といった外部要因によって遅延が発生したと回答しています。

## 消費者が配送遅延の原因だと考えているのは？



出典: [2021 Deloitte holiday retail survey](#)

調査回答者のうち、ブランドが遅延の原因だと考える人はわずか3%ですが、消費者の21%は、遅延の原因は小売業者や販売業者にあると考えています。この状況が続くと、小売業者は顧客からのロイヤリティを失ってしまいます。ロジスティクスに対して重くのしかかっているのは、オンタイム・イン・フル (OTIF)、つまり時間通りの配送の実現です。これは、遅延のない配送という観点だけでなく、顧客のロイヤリティと喜びを届けるというプレッシャーにも拍車がかかります。



## ロジスティクスの課題を軽視するリスク

消費者はブランドへのロイヤルティよりも、迅速かつ納期通りの配送を優先するため、ロジスティクスや配送の課題に取り組まないということは、すなわち競合他社に負けるということを意味します。そのリスクは次の通りです。

- ✕ **運用コストの増加** - 不測の出来事や輸送中の出荷状況をリアルタイムで把握できないと、配送遅延や発送の迅速化に向けたコスト増加、必要な安全在庫の増加が発生する可能性がある。
- ✕ **顧客満足度の低下** - 顧客満足度の低下 - 輸送中の貨物に関するアラートや最新情報を提供できないと、製品の品質や配送のサービス・レベルに影響を与える。
- ✕ **サービスコストの課題** - 現在の輸送資や稼働率、倉庫スペースの空き状況が把握できないと、サービスコストの計算が難しくなってしまう。
- ✕ **コンプライアンス違反** - 不正確かつ不完全な通関書類や、貿易のコンプライアンス違反は、港での出荷遅延や高額な罰金につながる可能性がある。

KPMGの調査「[輸送とロジスティクスにおけるコネクテッド・エクスペリエンス](#)」によると、輸送とロジスティクスのリーダーの80%が、自社はカスタマー・エクスペリエンスの向上に注力していると回答しているものの、85%はその手法を知らない、または必要な能力を有していないと回答しています。そのため、世界中の組織においてコネクテッド・ロジスティクス・システムを持つことは、より重要なものとなってきています。



# コネクテッド・ロジスティクスのベストプラクティス

コネクテッド・ロジスティクスが意味するところは、単に貨物を時間通りに配送することだけにとどまりません。これは、適切な顧客に対して、適切な製品を、適切な時間や場所、適切な条件で届けることを意味します。製品の品質基準を確実に維持できるように、温度変化の追跡や検出、遅延が見込まれる場合には追跡通知を実現することで、顧客は前もって計画ができ、満足のいく製品エクスペリエンスを提供することができます（図1）。

## ロジスティクスにおける7つの「適切」



図1: コネクテッド・ロジスティクスに求められる、完全なエンド・ツー・エンドのソリューション

顧客への配送の成功において必要なのは、エンド・ツー・エンドのロジスティクス・ネットワークを全体的に把握できること、そして予測分析を行い、混乱が生じた際に迅速に行動・対応できること、この2つを同時に満たす必要があります。コネクテッド・ロジスティクスのベストプラクティスは次の通りです。

- ✓ 既存の輸送、国際貿易、およびロジスティクス機能の**見直し**
- ✓ 輸送とロジスティクスのネットワーク内における、混乱に弱い領域の**特定**
- ✓ ロジスティクスのプロセスの中で、運用コストが高い領域の**評価**
- ✓ エンド・ツー・エンドの可視化とプロセス改善に向けた**データの活用**
- ✓ 運送業者やパートナーから、連携方法についての**フィードバックの収集**

# コネクテッド・ロジスティクスが難しい理由

それは、大規模で複雑なロジスティクス・プロセスの管理にはおいて、次のような課題があるからです。



## 即時性

納期通りのフルフィルメントを実現するには、荷主と輸送業者間のコラボレーションを可能にする、リアルタイムの更新と合理的な通信チャンネルが必要です。



## 継続的な進化

ルート設定やドライバーの状況、グローバルな貿易プロセス、持続可能な取組みへの対応など、より効率的で継続的なプロセス改善が必要です。



## 複雑性

配送時間を短縮するには定型プロセスを自動化し、精度改善と、出荷主や輸送業者、倉庫、顧客とのコラボレーション機能が必要です。



## コスト面

コネクテッド・ロジスティクスのネットワークの構築には投資が必要です。具体的には、手動でサイロ化された異なるシステムから、リアルタイムな可視化やコンプライアンスの確保、そして予測分析が可能な、統合的で自動化されたデジタル・アプリケーションへの切替えが求められます。



## 顧客中心主義

荷主や輸送業者は、顧客ニーズや需要の変化の中で、高いサービス・レベルの維持と優れたサービスの提供をすることで、顧客満足度を維持しなければなりません。

## コネクテッド・ロジスティクスの正しい理解においては、次のような問いかけも重要です。

- 製品品質と高いレベルのカスタマー・サービスを担保しながら、どのように納期通りの出荷を実現するのか？
- 貿易規制や通関要件を確実に遵守するにはどうすればよいのか？
- 不測の事態が発生した場合、どのように輸送業者やパートナーと計画、追跡、協力し、すべての関係者に対してどのように通知を行うのか？

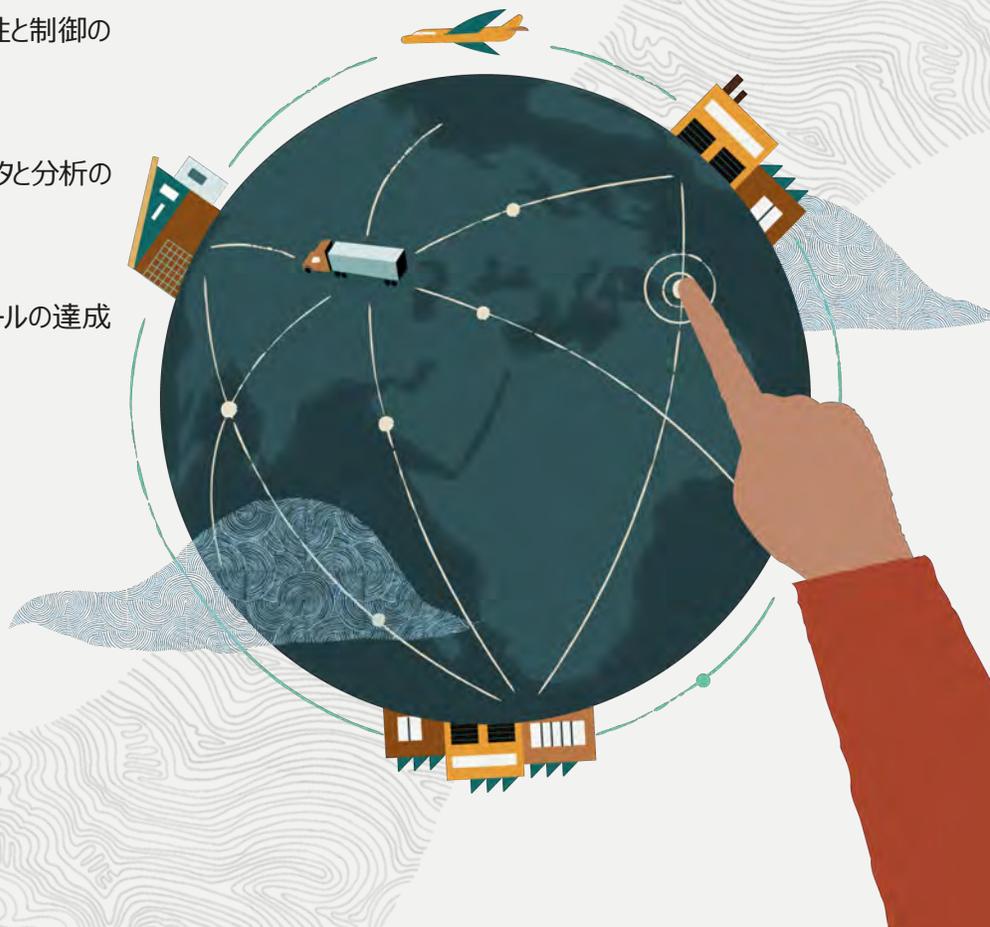
# Oracleが支援できること

Oracleは、[Oracle Fusion Cloud Logistics](#)および[Oracle Fusion Cloud Supply Chain Management \(SCM\)](#)に、コネクテッド・ロジスティクス向けの包括的かつ最高クラスの機能を実装しています。

このため、サプライチェーンを繋げ、回復性の高いネットワークを構築することで、変化する需要や供給、市場の状況に迅速に対応することができます。Oracle Cloud SCMは堅牢で包括的なプラットフォームを提供し、調達からサプライヤー管理、プランニング、製造、そして顧客への最終的な完成品の納品までを支援します。

## Oracle Cloud Logisticsが支援できること

- ✓ 輸送ネットワーク全体における出荷の最適化
- ✓ 輸送、取引、倉庫の各機能の統合
- ✓ 輸送中および国境を横断した可視性と制御の提供
- ✓ 継続的なプロセス改善に向けたデータと分析の理解
- ✓ 効率性の向上とサステナビリティのゴールの達成



# Oracle Cloud Logisticsは、サプライチェーンと 業務要件を満たすうえで有益な機能をすべて備えています。



## 包括的である

変化する需要と供給、市場の状況に対して、迅速に対応します。



## つながりがある

変化に耐えうる、回復性の高いネットワークとプロセスを構築します。



## インテリジェントである

確信を持った意思決定を行い、最適かつ自動化されたロジスティクスを実現します。



## 最高クラスである

業界のリーダーとして認知されているソリューションにお任せください。



## スタートしてみましよう

持続可能な輸送や国際貿易、流通プロセスをシームレスに管理し、オーダー・フルフィルメントを最大化できます。サプライ・チェーンにおけるビジネスの混乱や変化に適応しながら、ロジスティクスのコストを最小限に抑えます。Oracleは、輸送業者やパートナーとシームレスに連携しながら、計画から実行までエンド・ツー・エンドでロジスティクス・プロセスを管理できる、包括的かつ最高クラスのソリューションを提供しています。

Oracleのロジスティクス・ソリューションの詳細については、[oracle.com/logistics](https://oracle.com/logistics)をご覧ください。また、[Oracleにお問い合わせください](#)。

サイトにアクセスする



Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates.この文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものでもありません。当社はこの文書に関する一切の責任を放棄し、この文書による直接的または間接的な契約上の義務は生じないものとします。この文書は、いかなる形式や手段によっても、どのような目的でも事前の書面による承諾なく、電子的または機械的に再生または送信することを禁じます。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

